



荻窪家族レジデンス 訪問・見学レポート

平成 29 年 8 月 22 日(火)、生活クラブの方々 7 名と J R 荻窪駅の南側徒歩 7 分の所にある賃貸集合住宅「荻窪家族レジデンス」を訪問し、オーナーの瑠璃川正子さんと番頭の関屋さんに主旨や特長をお聞きました。

この住宅施設は「荻窪家族プロジェクト」の拠点として位置付けられ、「地域に開くコミュニティ型すまい」を謳い、単なる単身用アパートではなく、住む人(「居住空間」と近隣住民(使う人、「地域開放空間」との繋がりを大切にしたいものとなっています。

居住空間としての建物は 3 階建てで 1 階に 4 部屋、2 階に 10 部屋、3 階はオーナー住居ですが、3 階建てなのに「エレベータ(4 人乗り)」が設置されています。居住空間へはオートロックの玄関を開いて入りますが、そこで靴を脱ぐようになっています。

1・2 階の各部屋は約 25m² の車椅子などを考慮した広いトイレとシャワー室、洗面所を兼ねたミニキッチン、クローゼットなどが備わったものになっています。そして、家族レジデンスの名称を掲げているこの建物は、3 階に浴室 2 つと屋上庭園。2 階には 3 階から張り出した透明屋根の下にキッチン付きのプライベートラウンジ(約 30 m²)の他、複数のホールやテラスがある素敵な空間になっています。

また、1 階には洗濯室が備わっていて、複数の洗濯機と乾燥機が自由に使えるように

なっています。そのため、通常のアパートのような狭いユニットバスではなく戸建て並の広い浴室を使えたり、毎朝 7 時半頃にプライベートラウンジでオーナーと顔を合わせて食事したりと家族の様に居住者と接することが出来るようになっています。勿論、各部屋は居住者の個人の空間ですが、「ユニットバス」「キッチン」「洗濯機」が共有スペースにあるためとても広く使えるようになっています。

建物の詳細について





地域開放空間は、居住空間前の玄関で分かれていて、番頭のいる管理人室前を通って利用する形になります。ラウンジ(約30m²、調理場を含む)、アトリエ(工作室)、外のウッドデッキに繋がる集会室(約40m²)の3つがあります。また、トイレも十分な広さがあり、誰でも安心して利用できる施設になっています。

地域開放空間では、居住者だけではなく地域の方々が利用することも出来ます。私たちが訪問した日は、地域のお母さんと子ども達(10数名)が集会室とウッドデッキを利用して「水遊び」など大騒ぎをしていました。

私たちは、ラウンジにてお話しをお聞きしましたが、扉の防音も万全で、心地よく話し合いが出来ました。

アトリエは、まだ実稼働に至ってはいませんが「絵画」や「工作」がしやすい部屋として準備されていました。ラウンジは調理も出来るので「荻窪家族プロジェクト」の定番プログラムとして毎月、管理栄養士と料理人がコラボして食事を作り食べる「百人力食堂」、番頭の関屋さん担当のオトコの気まぐれ手作り料理とお酒を楽しむ「裏百人力食堂」などを行っている様です。

このような、今までにない形の賃貸集合住宅は、斬新で面白いものに感じました。そして、人間が人間らしく生きるには、介護して頂く施設に入るだけでは解決にならないと感じている私には、素晴らしい試みであると感じました。もちろん、そこには新しい課題もありいろいろと整理していかなくてはいけない点もあると思いますが、この「荻窪家族プロジェクト」には大きな可能性を感じました。そして、この「荻窪家族レジデンス」という建物以上に「荻窪家族プロジェクト」に携わっている方々の魅力を感じずにはられません。機会があれば、お会いできなかった方々とも会って話がしたいと思いました。

(2017/09/08 A.S)



< 建物西側の景色 >



< 建物正面 (左側半分) >



< 建物正面 (左側から見て) >



< 建物入口 >



< 入口右手のテナント >



< 介護サービス青い鳥 >



説明を受けているのは、ラウンジで、棚には「荻窪家族プロジェクト」の本や、九州震災の復興支援にと現地の陶器の展示販売をしていました。

